

能と狂言の大事典

最新、最高峰の
能・狂言事典



決定版

B5判・上製・函入・1040頁
定価35,200円(本体32,000円+税)
ISBN:978-4-469-01293-4
2026年7月刊行

〔編著〕

竹本幹夫
橋本朝生
高桑いづみ
西村聡
永井猛

大修館書店

◆類書中最多の約4800項目を収録

◆現行曲・番外曲・散逸曲等はもちろん、演出・素材をはじめ総合的に解説。狂言は現存する主要な台本をほぼすべて紹介

◆演出技法に関わる項目・記述を満載

◆延べ約1万4000の研究文献を紹介。貴重で圧倒的なレファレンス情報

◆「謡の記号一覧」「主な能舞台・能楽堂一覧」「能楽史年表」等も収録

◆全編を通じて歴史的な考察を重視。他領域の研究にとっても必携の内容

◆初めて鑑賞する人から研究者まで幅広く活用できる



▲ 試し読み
詳細情報

現行曲・番外曲等はあらずし・演出・素材をはじめ総合的に解説。
演出や技法に関わる項目・記述を満載!

千種 [ちくさ]

面打。鼓胴作者。生没年不詳。「ちくさ」とも読む。「申楽談儀」に「男面、近比よき面と沙汰有し、千種打也」、「わらんべ草」に「鞍ノ筒作人、面モアリ」、「仮面譜」には六作の一人として名をあげ、「惣テ影物ノ上作也 鐙ヲモ作ル 鼓ノ胴上作也」と記述がある。奈良県奈良豆比古神社所蔵の癒見面は、大癒見の要素と小癒見の要素が共存したような過渡的な表情で、その裏面に「千種左衛門大夫作 応永廿年(1413年)二月廿一日」とあり、千種作の可能性がある。千種男(千種怪士)に創作者として名を残し、三井文庫所蔵童子面にも千種作の伝がある。両面とも奈良豆比古神社蔵の癒見面とは面裏の彫法が大きく異なる。

【参考】日本の面・田辺能面芸術・論集日本の仮面(口絵解説)

千種男 [ちくさおとこ]

能面。怪士系の面の一種。別名、千種怪士とも。千種の創作による怪士という意味の名称か。千種は「申楽談儀」に男面の打ち手として登場するが、千種怪士の名称は「大野出目家伝書」が文献上の初出。眉の筋肉がやや底状に盛り上がり、頬骨が突き出て眼窩が落ちくぼみ、目に鍍金の金具を嵌めた怨霊面としての造型がよく整っている。一方で、下の歯列を欠き、頬をほんのりと紅で染めている点などがやや異色。過渡的な作例もほばみられない。室町時代以来、神の面として脇能の後シテなどに着用された。武将の幽霊などに着用されるようになったのは比較的新しいと考えられる。主として観世流が〈船弁慶〉(碇潜)の後シテに着用。松井文庫所蔵面などが著名。

【参考】能面大鑑・野上能面・岩波講座IV・岩波講座別巻・中村能面・宝生宗家展▽田辺三郎助「松井家の能面」(「松井文庫創立三十周年記念松井家の能」国立能楽堂、2015/論集日本の仮面)

竹生島 [ちくぶしま]

五流現行曲。脇能。作者不明。

【あらすじ】延喜の帝(醍醐天皇)に仕える臣下の一行(ワキ・ワキツレ)が登場し、近江国竹生島明神に参詣するため、都を出て志賀の里の嶋の浦に着いたと述べる(次第・名ノリ・上ゲ歌(道行)・着キゼリフ)。そこへ老人(前シテ)と女(前ツレ)が乗る釣舟が通りかかり、舟を呼ぶ声を聞いて臣下の一行のいる岸に漕ぎ寄せる(サシ・一セイ・サシ・下ゲ歌・上ゲ歌)。老人と女は臣下の一行を釣舟に乗せ、琵琶湖周辺の山々を眺めながら竹生島に着く(問答・歌・上ゲ歌・(クセ))。臣下の一行は老人の案内で弁才天を参拝するが、女人禁制の島に釣舟の女が同行するのを不審とする。老人は弁才天も女体の神であり、分け隔てなく自分たちは人間ではないと語り、水中に姿を消す(問答・歌・上ゲ歌)。女は作り物に中

入)。竹生島の社人(アイ)が登場して、社宝の数々を臣下に拝ませ、岩飛びをして見せる(名ノリ・問答・ノリ地)。社殿が鳴動して中から弁才天(後ツレ)が現れ舞(天女ノ舞)を舞う(キザシグリ・名ノリグリ・ノリ地・天女ノ舞)。続いて湖面が鳴動して水中から竜神(後シテ)が来現し(ノリ地)、臣下に金銀珠玉を捧げる(ノリ地・舞働・ノリ地)。弁才天は天女の姿で衆生の願いをかなえ、竜神もその姿を現して国土を守るという、それぞれの姿が仏の誓願であることを示して、弁財天は社殿に帰り、竜神は竜宮へ飛んで入る(ノリ地)。

【演出】前シテは朝倉尉・笑尉・小尉・三光尉などの面をかけ、水衣着流シ出立。後シテは黒髭面に赤頭、竜戴に法被・半切姿の竜神出立。火炎玉を載せた盤を持って登場。後ツレはツレ専用の女面に黒垂、長絹もしくは舞衣・大口姿の天女出立で、天冠を付ける。前場でワキが[次第]、シテが[一声]で登場するのは脇能としては異例で、翁付のときは[真ノ次第]、[真ノ一声]に替え、前シテ登場の語も変える。一疊台の上に小宮の作り物を載せ、そのほか舟も出す。前ツレは小宮の作り物に中入、前シテは[来序]の囃子で中入し、入れ違いにアイが登場する。後ツレは[出端]で作り物の中から登場し、後シテは[早笛]で登場。琵琶湖の景色を描く[上ゲ歌]と[クセ]、後場の[天女ノ舞][舞働]と[ノリ地]が聞こえ、見どころ。喜多流と金剛流のみが伝える小書「女体」がある。和泉流の替問「道者」では勧進聖が登場し、面白おかしく寄付を請う。

【参考】「竹生島縁起」などに取材か。

◆「能本作者注文」に「作者不分明 但シ大略金春能カ」に分類するが、金春座系の伝書に記載はない。室町期の演能記録に、1595(文禄4)年2月9日興福寺新猿楽南大門能4日目の金春大夫(玉井家本新能番組)の所演などがある。室町期の上掛り古写本に松井文庫蔵淵田虎頼等節付本など、下掛り古写本に天理大学図書館蔵天文元年清水弥左衛門奥書遊音抄など。

【参考】評釈2・国民上・叢書2・大観3・解註1・全書下・新註下・大系下・新編1・新大系・磯馴▽横道演出▽香西精「竹生島」作者と本説(「観世」1962.1/「能楽新考」稿、1972)、山崎有一郎「小書能を見る」(「観世」2000.6)、宮本圭造「作品研究〈竹生島〉」(「観世」2001.6)、岩崎雅彦「能「竹生島」の替問「道者」について」(「鏡仙」2006.9)、岩崎雅彦「道者アイ、三種」(「国立能楽堂」2016.7)、天野文雄「竹生島 女体とその来歴」(「国立能楽堂」2018.10)

竹生嶋詣 [ちくぶしまいり]

小名狂言。諸流。大蔵流では「明治後廃曲」とされたが、家によっては上演される。大蔵・和泉流ともに、古くは〈ぬらぬら〉と称した。和泉流現行は〈竹生嶋参〉。鶯流は〈物真似〉。大蔵流十番綴本(琴堂文庫

延べ約1万4000の文献を紹介。

圧倒的なレファレンス情報。

全編を通じて歴史的な考察を重視。

他領域の研究にも必携の内容。

【編著者】 竹本幹夫(早稲田大学名誉教授)
橋本朝生(元山梨大学教授)
高桑いづみ(東京文化財研究所名誉研究員)
西村 聡(金沢大学名誉教授)
永井 猛(米子工業高等専門学校名誉教授)

【執筆協力者】 青柳有利子/天野文雄/網本尚子/伊海孝充/石井倫子/稲田秀雄/井上愛/鶴澤瑞希/恵阪悟/
※五十音順 大谷節子/大谷優紀/大谷いづみ/大山範子/奥山けい子/小田幸子/小野里法子/表きよし/尾本頼彦/
小山弓弦葉/金子健/蒲生美津子/川島朋子/吉川周平/小林健二/佐藤和道/重田みち/正田夏子/
関屋俊彦/高橋悠介/高橋葉子/田口和夫/竹内晶子/玉村恭/中尾薫/中嶋謙昌/長田あかね/
中司由起子/中野顕正/西瀬英紀/羽田昶/林和利/平林一成/深澤希望/藤岡道子/藤田隆則/松本雍/
丸山穂波/見市泰男/三浦裕子/味方健/三宅晶子/宮本圭造/母利美和/森田都紀/柳瀬千穂/
山路興造/山中玲子/山本晶子/横山太郎/米田真理



現代においては、新しいことと判りやすいことが、そのものの価値を定めるときを目安となっている。どちらも大切ではあるが、その裏で古典的なものに対する価値が極端にゆがめられているという現状がある。能楽と総称される能・狂言もそのような古典の一つであり、かつてはこれらを演じることが日本人の趣味の第一であったのが、今や演じるどころか見る人さえも少なくなった。能・狂言が世界に冠たる舞台芸術であることは疑いのないところであるが、現代の日本における実際の担われ方を見ると、その基盤は脆弱である。恐らくは古典的なもの、ひいては人文科学全般に共通しているであろうこうした現象は、能・狂言における知識のあり方にも表れている。研究が著しく進展した反面、一般向けの知識は研究の進展を反映するところがあり多くない。本書はそのようなギャップを埋めるべく、能楽に関わる網羅的かつ最先端の知識を集積することに努めた。

本書の記述内容は高度に専門的な側面があるが、そのいっぽうで極力判りやすくあることに注力した。それらが相俟って、各項目は簡明を旨とするというよりは、詳細を極めたものとなり、事典の常識を超えて長大なものとなった例もある。各項目の多くは歴史的な変遷を踏まえて、なぜ現在このようであるのかという視点で構成されており、項目数の多さとその深さにおいて、類例のないものとなっている。『能と狂言の大事典』と名付けたゆえんである。

本書が能楽という古典世界をより良く、より深く理解するための一助になれば幸いである。

(本書「刊行にあたって」より抜粋し、再構成)

大修館書店 〒113-8541 東京都文京区湯島 2-1-1 TEL03-3868-2651 <https://www.taishukan.co.jp/>

注文書	書名	能と狂言の大事典 978-4-469-01293-4		定価	税込 35,200 円 (本体 32,000 円+税)	ご注文数	冊
	お名前			ご記入日	年 月 日		
	ご住所 〒						
	電話番号	()					

番線印

*お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。